



連合駿台会報

No.340 平成30年7月15日発行
 発行・編集 連合駿台会
 発行人 広報委員長・齋藤柳光
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子
 〒101-0052千代田区神田小川町三―二二
 明治大学「紫紺館」内
 電話 (〇三三) 三二九六一四七四七
 印刷 有限会社 美 創

第六十四回連合駿台会総会を開催

第六十四回連合駿台会の通常総会が、平成三十年五月十八日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

田村駿会長は開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い、会長が議長となり、議案の審議が進行されました。なお、第一号議案・第二号議案は関連性が深いものなので、両議案の説明後に、質問を一括で受け、そして決議に入りたいとの提案が議長からあり、異議なく承認され、審議に入りました。

○第一号議案

平成二十九年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成二十九年度の事業報告(①例会・総会…六回、②理事会…五回、③その他(ビジネス勉強会…二回、正副会長会…一回、オープンゴルフコンペ…二回、新入会員歓迎会…一

回、「紅葉とワインを満喫する」バスツアー…一回、グルメ交流会…二回、運営委員会…

六回、大学支援のあり方検討委員会(平成二十九年度新設)…八回、各委員会、④会報

発行…六回、⑤会員状況)について、上西専

務理事から報告があった。会員数について

は、新入会員は三十六名、退会会員が昨年よ

り十六名減の十六名にとどまったため、昨年

度末と比べると二十名増加して、三百五十一

名となった。

▽平成二十九年度の収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録については、坂田英夫財務委員長より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、当期収入総額は1875万5144円(予算額1822万円・対予算比一〇二・九%)で、内訳では、予想以上に会員増になったこともあり、年会費収入は一五三〇万2000円(予算額1445万円・対予算比一〇五・九%)で、予算を85万円あま

り上回った。他方、例会費収入は277万円(予算額295万円・対予算比九三・九%)、広告費収入68万円(予算額80万円・対予算比八五・〇%)はともに予算を下回り、今後の課題ともいえる。

・「支出の部」では、総務費関係は五八六万7261円(予算額527万円・対予算比一一・三%)となっており、備品消耗品費が対予算比プラス四五・三%、事務通信費や雑費も予算を二四%あまりオーバーしている。事業費の各委員会運営費では、一番大きな予算を組む総務・事業委員会費が684万2240円(予算額635万円・対予算比一〇七・八%)で予算をややオーバーした。これは予算を組んでいなかった「大学支援のあり方検討委員会」の出費が約106万円あり、これを除けば予算を下回っている。また広報委員会費も305万61800円(予算額270万円・対予算比一一三・二%)だったが、これもHP運営業務委託費(定額・年間約36万円)が、支払いの関係で平成二十八年度分も含めて、二年分まとめて支払いになったことを除けば、予算内といえる。他の三委員会費はすべて予算未達で、五委員会の総額は1297万8574円で、予算額1270万円に対し二・二%オーバーで、30万円弱の赤字だった。その他慶弔費も合わせ、当期

支出合計は1889万5835円、当期収支差額はマイナス14万691円となり、この二年間続けて約60万円の赤字だったことと比べれば改善されており、これを受けての次期繰越収支差額は4105万7373円となった。

・「正味財産増減計算書」については、一般正味財産増減の部に当期収支差額分が加算されて、今期の残高は4105万7373円、これに有志正味財産1800万円を加えた5905万7373円が正味財産期末残高になり、この約6000万円が当会の財産となる。

・「貸借対照表」では、借方「資産の部」が小口現金・みずほ銀行普通預金・ゆうちょ銀行普通預金・みずほ銀行定期預金・MMF・電話加入権を合計した5966万8103円で貸方「負債・正味財産の部」の額と一致している。ただ、入出金がまったくないゆうちょ銀行・普通預金、預けたままになってしまっているMMFをどうするかという問題は残るかと思う。

▽監査報告（野口昌宏監事）

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、五月十四日付けで野口昌宏監事・二宮充子監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に行われており、一般会

計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

○第二号議案

各委員会平成二十九年事業報告および平成三十年事業計画（案）・活動予算（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽平成三十年度の連合駿台会活動基本方針に關しては、昨年度と同様の方針を踏襲して進めたいという報告があった（上西専務理事）。

*

▽総務・事業委員会 河村博委員長

〈平成二十九年事業報告〉

① 例会六回（含む総会・駿台懇話会）、理事会五回、正・副会長会一回、運営委員会六回、大学支援のあり方検討委員会八回をそれぞれ開催した。

② 新規会員の定着・懇親のための事業（ビジネス勉強会二回、新入会員歓迎会）を開催した。

③ 会員相互の親睦会（バス旅行、グルメ交流会二回、オープンゴルフコンペ二回）を開催。

〈平成三十年事業計画・活動予算（案）〉

① 平成三十年年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。

② 新規会員の定着・懇親のための事業（ビ

③ ジネス勉強会・新入会員歓迎会 を開催。会員相互の親睦会（バス旅行等、グルメ交流会、オープンゴルフコンペ）を開催。

【活動予算】 985万円（六十五周年記念例会費350万円を含む）

▽組織・会員増強委員会 高澤徹委員長

〈平成二十九年事業報告〉

① 委員会の開催
六回開催し入会審査の実施と、理事会上程および持ち回り理事会（二回）等、速やかな承認手続きの遂行をした。

② 会員増強活動の推進
入会者：目標二十名

〈実質〉新規入会者（三十六名）、三月入会承認者〃三名
会承認者〃三名

〈内訳〉新社長・役員リスト 十一名
会員〃紹介 二十八名

―平成二十九年四月一日時点の会員数―
三百三十一名

―平成二十九年実績―
退会者：十六名

入会者：三十六名 計二十名増
―平成三十年四月一日時点の会員数―

三百五十一名

③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施
会員〃紹介による入会希望者の例会同伴費用は二名にとどまった。

総務・事業委員会と連携して、新入会員
歓迎会を開催した。

〈平成三十年度事業計画・活動予算(案)〉

① 委員会の開催

年六回を目安に入会審査の実施と速やかな承認の手續きの遂行を行う。

② 会員増強活動の推進

新社長・役員リスト等による活動と会員
ご紹介を推進する。

会員ご紹介による入会希望者の例会同伴
費用を無料とする。

③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施 を図る。

【活動予算】 20万円

▽広報委員会 斎藤柳光委員長

〈平成二十九年事業報告〉

① 会報(第三三三三号〜三三八号)を定期刊
行して、会員相互の情報を共有して会の
運営の円滑化を図り、広報委員が編集後
記などを積極的に出稿した。

② ホームページ(H P)を全面的にリ
ニューアルして、スマホ対応など機能の
強化をし、インフォメーション内容の
アップ回数を増やし、今後の予定等も入
れ充実させた。

③ 会報新年号の年賀名刺広告は、「会報へ
の資金援助」の理解のもと協力を得た。

〈平成三十年度事業計画・活動予算(案)〉

① 全面的にリニューアルしたH Pの活用を 一層強力に推し進め、情報のスピード アップを図るとともに、会員の寄稿な どの協力を得て、大学やその他関係機 関や団体などともリンクして、会の広報活 動を積極的に推し進める。学外の一般広 報媒体を通して、機会を得てパブリ ケーションしていく。

② 連絡通信に限って許諾いただいた会員の
メールアドレスを、テスト的に活用して
いく。

③ 学内の広報媒体を通して会のP Rを企画
し、大学支援の一環とする。

④ 年賀名刺広告の意図に理解を得て、ス
ペースや費用の幅を持たせ参加率を高め
る。

【活動予算】 220万円

▽大学支援委員会 浅井宏委員長

〈平成二十九年事業報告〉

① 学術賞・学術奨励賞は一月十八日の駿台
懇話会にて授与。学術賞三名、奨励賞二
名で、学術賞・須田専任教授が代表して
記念講演を行った。

② 連合駿台会寄付講座をグローバルフロン
ト・ホールにて、春期・秋期の講座を実
施。

・春期(六月二十日) 西澤豊氏(株)時事
通信社・相談役)

・秋期(十一月九日) 河本英雄氏(株)
ユーハイム・代表取締役社長)

③ フューチャースキル養成講座を商学部・
経営学部にて開講。会員協賛企業七社の
協力をいただき好評にて終了。一部学生
の受講姿勢が問題となり、次年度改善を
図る予定。

④ 交換留学生(出席者約二百名)の春期・
秋期修了式に田村会長に出席いただき、
記念品授与。

⑤ ホームカミングデー、お茶の水J A Z Z
祭、シエイクスピアプロジェクトへの協
賛。

〈平成三十年度事業計画・活動予算(案)〉

① 学術賞・奨励賞は研究知財事務室と協議
し、応募数と対象者枠を増やすべく対
応。

② 連合駿台会寄付講座は、例年通り春期・
秋期を予定。

・春期(六月十四日) 榎本知佐氏(前株)
東京電力・執行役員)
・秋期(十一月【予定】 桑島壮一郎氏
(GINZA SIXリテールマネジ
メント(株))

③ ・フューチャースキル講座は経営学部か
らの増設要請に合わせ一講座を増設し、

八講座を協賛八企業の協力を得て開講予定。

・大学支援のあり方検討委員会の答申とリンクさせ、学部三〇四年次生および大学院生を対象とした「ビジネス・アイデア・コンテスト」を新設し、対象学生の就業力アップへの協力を行う。

④ 交換留学生支援は、大学支援のあり方検討委員会の答申を受け、留学生の就職支援に変更する。

⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シェイクスピアプロジェクトへの協賛。

【活動予算】 340万円

▽財務委員会 坂田英夫委員長

〈平成二十九年事業報告〉

① 当年度中の新規入会者数は目標の二十名を大幅に超えて三十六名となり、退会者も十六名でとどまり、二十名の純増となった。

② 会費未納者数は、三百五十一名中二十名で、会費未納率は五・六%となり、平成二八年度末の七・〇%と比較して、一・四ポイント下がった。平成二十七年度末は七・四%、同二十六年度末は七・七%であるので、年々減少傾向にあることは

望ましい。

③ 年会費収入は、当初予算の1445万円に対して1530万2000円（※振込手数料差し引いて振り込まれた二件分972円を事務通信費から補填して端数をなくした）で、約85万円の増収、対予算費も一〇五・九%となった。

④ 〈平成三十年三月三十一日現在〉

☆会費納入見込み会員数：三百五十一名
一般：二百九十一名 地方：六十名

☆会費納入者数：三百三十四名（会費を納入して退会した人を含む）
一般：二百七十六名 地方：五十八名

〈平成三十年事業計画・活動予算（案）〉

① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底を図り、財産基盤が損なわれないよう、収支差額予算を達成する。

② 当会資産の運用、活用方法について協議し、使途などを提案する。

③ 当会の改革のあり方、大学支援制度の確立に向けての提案をする。

【活動予算】 10万円

【平成三十年度収支予算（案）】

① 収入の部では、年会費収入は昨年度の納入実績に合わせ、新入会員入金金分も三十名とし、1500万円とした。例会費

収入は四回を百名、一回を九十名と見込んでいる。

② 特筆すべきは、六十五周年記念例会のために200万円の特別収入を計上されていることで、先ほど総務・事業委員会のほうから350万円との説明があったが、そこから会費分（150名×@10000円＝150万円）を引いた差額分を、「前期繰越取崩」として計上、広告費収入と雑収入は、ともに昨年の実績に基づいて想定し、当期収入計は2166万円。前期繰越収支差額をプラスし、前期繰越取崩額をマイナスした結果、当期収入合計は6071万7373円となった。

③ 支出の部では、総務費は昨年より10万円増やして537万円、事業費は先ほど各委員長から計上された額の合計に、従来通りの慶弔費を加えた1585万円、予備費を10万円として、当期収支差額は34万円となっている。

第一号議案・第二号議案については、満場一致で可決・承認された。

第三号議案

役員改選の件

田村会長から以下のような説明があった。役員の任期は、規約第十条に定められてい

るように一期二会計年度であり、今回が全役員任期満了となる。新人事は、会長は私ともう一期努めさせていただく前提の上でお話します。

今回の役員改選の主な目的としては、ここ数年五〇歳〜六〇歳代の方が大勢入会されているので世代交代も考慮し、さらに六十五周年の記念イベントの成功や答申の具現化のため、理事の員数を増やし、委員会を充実させるということに重点を置いた。このような観点から人事を決めさせていただいたことにご理解をいただきたい。

※新役員については、別添「運営組織表」を参照のこと。

第三号議案については、全員異議なく承認された。

第四号議案

その他

上西専務理事より、平成三十年度の例会日程等の発表があった。以上

上記議事録は、適切に記録されているものと認める。

議事録署名人 青柳 勝栄
議事録署名人 浅井 宏

平成30年度 連合駿台会 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、オール明治の団結と絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

1

【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交歓し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動等社会貢献の実施、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

2

【大学の発展への寄与と連携強化】

大学の教育と学術研究の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施する。また大学がすすめる知的資産の運用やビジネスインターンシップ制度、グローバル化推進に連携して取り組む。さらに、新しい視点での大学支援を検討し、適宜大学への提言を行う。

3

【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実ともに存在感のある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

4

【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘にも力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

平成29年度 連合駿台会 収支計算書

自：平成29年4月1日

自：平成30年3月31日

(単位：円)

収入の部				実績摘要 (収入の部)
勘定科目	予算額	実績	予算比	
年会費収入	14,450,000	15,302,000	105.9%	(一般)267名、(地方)58名(新入会員入会金)36名×@30,000=1,080,000円
例会費収入	2,950,000	2,770,000	93.9%	例会-5回(予算100名×4回⇒平均96名×@5,000円)+(予算90名⇒74名×@5,000円)=2,770,000円
広告費収入	800,000	680,000	85.0%	名刺広告代(@10,000円×53件+@30,000円×5件)
雑収入	20,000	3,144	15.7%	みずほ普通預金・みずほ定期預金・ゆうちょ銀行利息
当期収入計	18,220,000	18,755,144	102.9%	
前期繰越収支差額	41,198,064	41,198,064	100.0%	
当期収入合計	59,418,064	59,953,208	100.9%	
支出の部				実績摘要 (支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
I. 総務費				
(1) 家賃共益費	620,000	618,000	99.7%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	2,236,000	101.6%	事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務通信費	1,000,000	1,240,833	124.1%	電話代(約160,000円)/例会資料等発送費(約800,000円)/振込手数料ほか(約280,000円)
(4) 備品消耗品	400,000	581,076	145.3%	文具代ほか(約260,000円)/発送用封筒・会員ネーム札作成代ほか(約240,000円)/名刺代(約80,000円)
(5) 印刷費	650,000	694,663	106.9%	事務局コピー機リース代(約192,000円)/コピー用紙代ほか(約502,000円)
(6) 雑費	400,000	496,689	124.2%	事務局交通費(約390,000円)/資料代ほか(約120,000円)
総務費計(I)	5,270,000	5,867,261	111.3%	
II. 事業費				
1.各委員会運営費				
(1) 総務・事業委員会費	6,350,000	6,842,240	107.8%	例会費講師謝礼等(約4,600,000円)/運営委員会・正副会長会・大学支援あり方委員会会費等(約1,060,000円)/名簿代(約380,000円)/各種事業費・委員会費・諸経費等(約800,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	200,000	80,000	40.0%	委員会費(70,000円)/例会費補助(10,000円)
(3) 広報委員会費	2,700,000	3,056,180	113.2%	会報発行費(1,730,000円)/HP運営業務委託費(2年分・約710,000円)/HPリニューアル費(540,000円)/委員会費(77,700円)
(4) 大学支援委員会費	3,350,000	2,400,154	89.5%	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(約1,420,000円)/寄付講座経費(約170,000円)/留学生支援(約300,000円)/大学行事協賛金(500,000円)/委員会費(10,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	0		※左記600,000円は平成29年度分経費未払分(平成30年5月2日支払い)
各委員会運営費計	12,700,000	12,978,574	102.2%	
2.その他事業費				
(1) 慶弔費	100,000	50,000	50.0%	
その他事業費計	100,000	50,000		
事業費計(II)	12,800,000	13,028,574	101.8%	
III. 予備費	100,000	0		
事業費計(III)	100,000	0		
当期支出合計(I+II+III)	18,170,000	18,895,835	104.0%	
当期収支差額	50,000	△140,691		
次期繰越収支差額	41,248,064	41,057,373	99.5%	

平成29年度 連合駿台会 正味財産増減計算書

自:平成29年4月1日

自:平成30年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
(当期一般正味財産増減額)	
当期収支差額	△ 140,691
一般正味財産期首残高	41,198,064
一般正味財産期末残高	41,057,373
II 有志正味財産増減の部	
当期有志正味財産増減額	0
有志正味財産期首残高	18,000,000
有志正味財産期末残高	18,000,000
III 正味財産期末残高	59,057,373

平成29年度 連合駿台会 貸借対照表

自:平成29年4月1日

自:平成30年3月31日

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	59,657,803	(流動負債)	610,730
小口現金	655,716	源泉預り金	10,730
みずほ銀行・普通預金	2,942,595	未払金	600,000
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,622	(正味財産)	59,057,373
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1. 有志寄付金	18,000,000
M. M. F.	12,463,870	2. 次期繰越収支差額	41,057,373
(固定資産)	10,300	(うち 当期正味財産増加額)	(△140,691)
電話加入権	10,300		
資産合計	59,668,103	負債・正味財産合計	59,668,103

平成29年度 連合駿台会 財産目録

自：平成29年4月1日

自：平成30年3月31日

(単位：円)

科目	金額		
1. 資産の部			
(1) 流動資産			
小口現金	655,716		
みずほ銀行・普通預金	2,942,595		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,622		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
M. M. F.	12,463,870		
流動資産合計		59,657,803	
(2) 固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
資産合計			59,668,103
2. 負債の部			
(1) 負債の部			
源泉預り金	10,730		
未払金	600,000		
流動負債合計		610,730	
負債合計			610,730
正味財産			59,057,373

平成30年度 例会日程予定表

年	月日・曜日	開始時間	会場	講師・出演者等(予定)	備考
平成30 (2018)	7月11日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	(株)経営参謀 代表取締役社長 新谷 健司 氏	暑気払い例会
	9月19日(水)	18:00	ホテルグランドパレス 「ダイヤモンドルーム」の間	コント・グループ 「ザ・ニュースペーパー」	創立65周年 記念例会
	11月21日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	イシハラクリニック院長 石原 結實 氏	忘年会
平成31 (2019)	1月16日(水)	17:30	明治大学 詳しい会場は未定	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月20日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	立命館アジア太平洋大学学長 出口 治明 氏	※ライフネット生 命の創業者
	5月17日(金)	18:00	明治大学 「紫紺館」	講演なし	総会

※9月例会は、「創立65周年記念例会」になります。

※平成30年 4月13日に「第13回オープンゴルフコンペ」、4月17日には「第10回ビジネス勉強会」(ともに総務・事業委員会主催)を実施済み。

※総務・事業委員会では、秋頃にビジネス勉強会、オープンゴルフコンペ、バス旅行(10月27日開催予定)のほか、年2回のグルメ交流会、新入会員歓迎会(2月頃)の開催を予定。

※駿台懇話会の会場については未定。

平成30年度 連合駿台会 収支予算

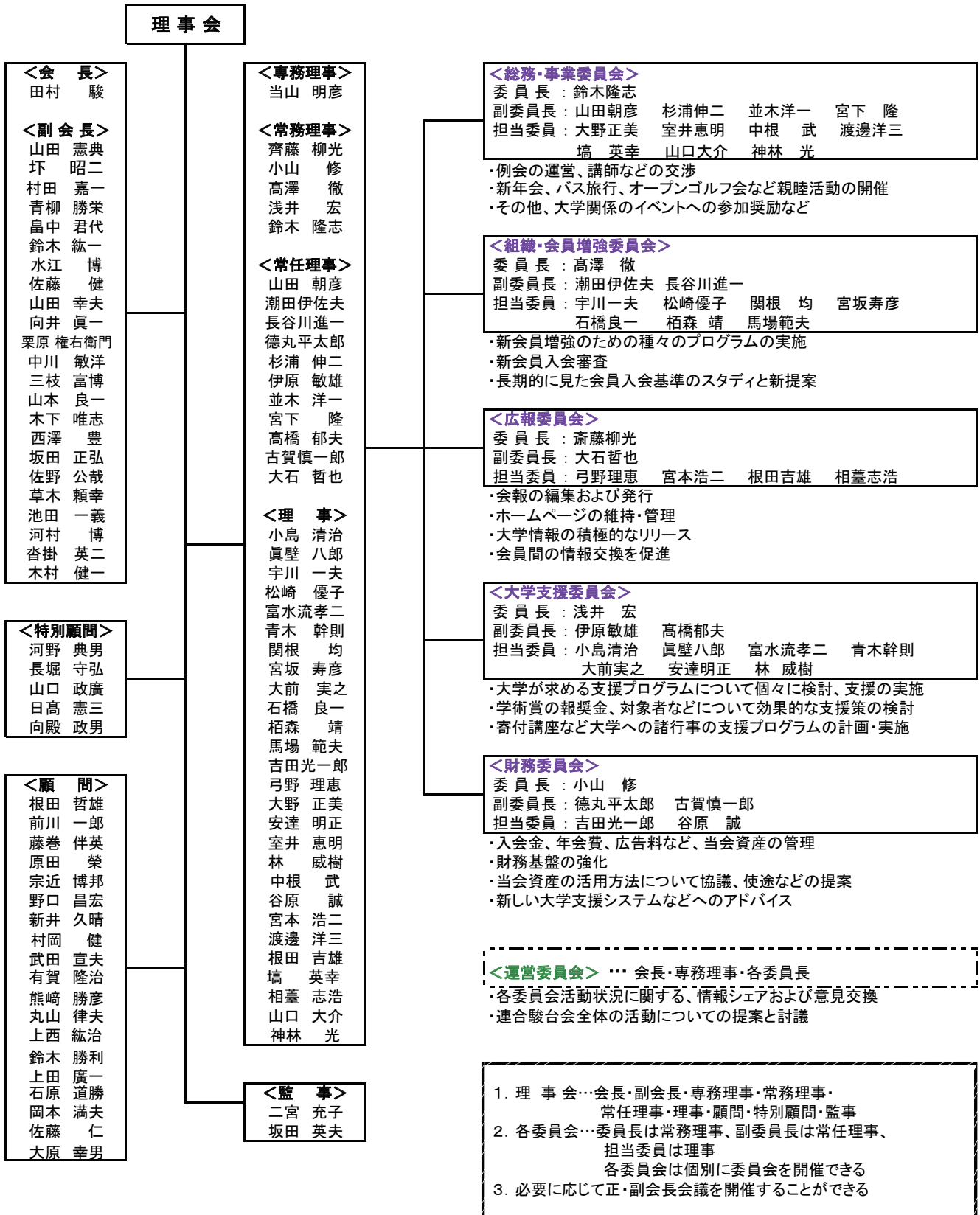
自:平成30年4月1日

至:平成31年3月31日

(単位:円)

収入の部		摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	
年会費収入	15,000,000	* (一般) 270名 × @50,000円 = 13,500,000円、(地方) 60名 × @10,000 = 600,000円 (新入会員入金会金) 30名 × @30,000 = 900,000
例会費収入	3,950,000	* (夜例会) 6回 … (100名 × 4回 × @5,000) + (90名 × 1回 × @5,000) = 2,450,000円 * 65周年記念例会 … 150名 × @10,000 = 1,500,000円
65周年特別収入	2,000,000	* 前期繰越取崩
広告費収入	700,000	
雑収入	10,000	* 預金利息
当期収入計	21,660,000	
前期繰越収支差額	41,057,373	
前期繰越取崩額	△2,000,000	
当期収入合計	60,717,373	
支出の部		摘要(支出の部)
勘定科目	金額	
I. 総務費		
(1) 家賃共益費	620,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	* 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務・通信費	1,000,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料ほか
(4) 備品消耗品	500,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代ほか
(5) 印刷費	650,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代ほか
(6) 雑費	400,000	* 事務局交通費/資料代ほか
総務費計(I)	5,370,000	
II. 事業費		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,350,000	例会費・講師等謝礼(4,500,000円)/正・副会長費、運営委員会費(600,000円)/名簿発行費(400,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費(150,000円)
	3,500,000	65周年記念例会費
(2) 組織・会員増強委員会費	200,000	新入会員定着活動費(150,000円)/会員増強活動費(50,000円)
(3) 広報委員会費	2,200,000	会報発行費(1,740,000円)/HPの更新・管理・維持費(360,000円)/委員会費(100,000円)
(4) 大学支援委員会費	3,400,000	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(1,500,000円)/寄付講座およびその他経費(750,000円)/ビジネスアイデア・コンテスト副賞ほか(300,000円)/留学生支援費(300,000円)/大学行事協賛金(500,000円)/委員会費(50,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	15,750,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
事業費計(II)	15,850,000	
III. 予備費	100,000	
事業費計(III)	100,000	
当期支出合計(I+II+III)	21,320,000	
当期収支差額	340,000	
次期繰越収支差額	39,397,373	

連合駿台会運営組織表



◆新入会員ご紹介

前会までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・到着順)



牛腸 栄一
昭和三十八年・政経学部卒
(株)ロッテ・代表取締役社長
東京都渋谷区在住



大屋 政則
昭和三十六年・政経学部卒
朝日航空(株)
代表取締役社長
大阪府大阪市在住



渡邊 一治
昭和三十九年・商学部卒
(株)スクウェア・エニックス・ホールディングス最高財務責任者
東京都品川区在住



田村 健
昭和三十九年・政経学部卒
(株)大気社・執行役員営業統括部長兼海外営業統括部長
東京都練馬区在住



渡邊 建三
昭和三十二年・法学部卒
(株)アクトワンマイチ
代表取締役社長
大阪府大阪市在住



川原 均
昭和三十七年・法学部卒
デロイトトーマツコンサル
ティング合同会社・副社長
神奈川県横浜市在住

◆明大ニュース

●連合駿台会寄付講座

「コミュニケーション」

「AIにも代替できない対話力」を開催

明治大学の生涯学習機関・リバティアカデミーは六月十四日、連合駿台会寄付講座「コミュニケーション」～AIにも代替できない対話力～を駿河台キャンパス・グローバルホールで開催した。

講師は、東京電力ホールディングス(株)で今年三月末まで執行役員、ソーシャル・コミュニケーション室長を務め、現在は(株)日立製作所のエグゼクティブ・コミュニケーション・ストラテジストである榎本知佐氏(一九八四年法学部卒)が担当。同氏がグローバルに活躍してきたこれまでのキャリア、とりわけ東

京電力での取り組みなどを基に、「コミュニケーション」の重要性が紹介された。

今後はさらに人工知能が進歩し、活用される範囲も飛躍的に拡大することが想定されるが、その中にあっても榎本氏は「自分が誰に何を伝えたいのか、その思いを見つめることが重要であることは変わらない」と言及。その上で、共感を得たいのか異なる意見を聞きたいのか、理解を求めるのかアドバイスに留めるのかなど、「相手の思いもすっかり受け止めることができる『対話』こそが、AIに代替できない部分だ」と締めくくった。

その後の質疑応答では、これまでに培ってきたビジネスマインドや今後のビジョンなども話題に上がり、来場者は熱心に耳を傾けていた。

●明大生6人がスタンフォード大など

海外トップスクールに留学

「海外トップユニバーシティ

留学奨励助成金」を適用

二〇一七年度に創設された「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」。このうち、特に高い成績・語学要件が求められる【留学奨励助成金S】の対象大学・留学プログラムに、明大生六人が六月から順次留学している。

六人(法学部一人、政経学部二人、経営学

部二人、国際日本学部一人）が参加する留学プログラムは、「スタンフォード大学サマーセッション IHP (International Honors Program)」、「ペンシルベニア大学 IGSP (International Guest Student Program)」、「ロンドンスクールオブエコノミクスSSS (Summer Session Program)」、「ハーバード大学サマーセッション」の四つ。

いずれも世界各国から優秀な学生が集まる難関プログラムであり、六人はそれぞれ世界トップレベルの授業を体験することとなる（留学期間は約二カ月～一学期間）。

「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」は、対象の留学プログラムに参加する学生に対し、一学期で一人あたり留学奨励助成金「S」では最大300万円、「A」では最大100万円を支給する制度。授業料や寮費、渡航費といった留学経費の経済的負担の軽減につなげ、優秀な学生の海外留学を促進することを目的に、二〇一七年六月に新設された。

●日仏交流百六十周年イベント

「フランス・デー」を開催

駐日フランス大使館ルセック公使が講演

明治大学は五月二十五日、日仏交流百六十周年イベント「フランス・デー」を駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した

（共催：在日フランス大使館／在日フランス商工会議所）

一八五八年の日仏修好通商条約締結から六十年にあたる節目の年に企画されたこのイベントは、文化・経済・社会などさまざまな角度からフランスへの理解を深めることが目的。土屋恵一郎学長はあいさつの中で、本学創立者二人がフランスに留学し、フランス法を学ぶ明治法律学校として誕生した経緯などに触れ、「明治大学は始まりも今もフランス。これを出発点としてさらにフランスとの関係を強めていきたい」と、開催の意義を訴えた。

メインイベントでは、在日フランス大使館のジャン＝バティスト・ルセック公使による「フランス、ヨーロッパから南太平洋への架け橋」をテーマにした講演が行われた。ルセック公使は、ヨーロッパで存在感を発揮するフランスの経済や、新たな息吹をもたらしたマクロン大統領による政治、ヨーロッパの再構築へ向けたフランスの役割などについて説明。日仏関係については、「特別なパートナーシップのもと、協力的かつ友好的な関係が築けている」と語り、「これこそ国際的な平和に向けた姿勢だ」と締めくくった。

当日は他にも、在日フランス商工会議所、ロクシタン、ピエール・エルメ・パリの三社によるフランス企業講演会や、フランス語圏のマンガである「バンド・デシネ」の翻訳

家・原正人氏による日仏マンガを解説する講演会、「住宅から都市へ」フランスと日本の文化から考える」と題した小林正美理工学部教授と二人のフランス人都市デザイナーによるシンポジウム、フランス映画の上映会などが開催された。さらに、アンステイチュ・フランセ東京所蔵のマンガ・書籍の展示や明大生による異文化交流クイズイベントが催されるなど、延べ三百人以上が会場に訪れ、多様なフランスの魅力を発信するイベントは盛況のうちに幕を閉じた。

●司法試験(短答式試験)

明大から百二十二人が合格―全国六位

法務省は六月七日、二〇一八年司法試験のうち短答式試験（憲法・民法・刑法、五月二十日実施）の結果を発表した。明治大学専門職大学院法務研究科（法科大学院）の合格者数は百二十二人で、法科大学院別では全国六位だった（合格率は五九・八％）。上位十校は下表参照（予備試験からの合格者は除く）。
☆二〇一八年司法試験（短答式試験）

合格者数 法科大学院上位十校

①中央大、②早稲田大、③慶応義塾大、④東京大、⑤京都市大、⑥明治大、⑦一橋大、⑧神戸大、⑨大阪大、⑩同志社大

総受験者数五千二百三十八人のうち、合格者は三千六百六十九人、平均年齢は三十一

八歳だった。論文武試験（五月十六、十七、十九日実施）の成績も加えた最終合格者の発表は、九月十一日に行われる。

司法試験の受験資格は、法科大学院課程の修了、または司法試験予備試験の合格により得られる。受験期間は、受験資格取得日後の最初の四月一日から五年間。

●世界銀行副総裁による特別セミナー開催

国際連携本部は六月七日、世界銀行と共催で同行副総裁のマニユエラ・フェツロ氏を招いた特別セミナーを駿河台キャンパス・グローバルフロントで開催した。

これは、貧困削減と持続的成長の実現に向けて途上国政府に対し、融資・技術協力・政策助言を提供する国際開発金融機関である世界銀行が、明大生に対して国際協力分野でのキャリアに興味関心をもってもらうことを目的に企画したもの。学部生や大学院生、留学生ら約百七十人が参加した。

セミナーでは、世界銀行の業務政策・被支援国サービス担当副総裁であるフェツロ氏が「未来に向かって…経済開発の課題と機会」と題して講演。途上国をはじめ世界が直面する課題や、その中で世界銀行グループが果たすべき役割などについて説明した。さらに人的資本への投資や自然災害や経済危機への対応などに言及し、二〇三〇年までに目指す貧

困撲滅と繁栄の共有について学生たちへメッセージを送った。その後の質疑応答では、学生から英語による質問が多数寄せられるなど、活発な議論が交わされ、大いに刺激を受けるセミナーとなった。

終了後には、フェツロ氏と世界銀行グループ関係者が大六野耕作副学長（国際交流担当）と政治経済学部の武田巧教授、堀金由美教授と懇談し、今後の連携に向けた意見交換が行われた。

●OB区長

▽東京都杉並区長（六月二十五日開票）
田中良氏（無所属③、一九八四年政経学部卒・五十七歳）

●OB社長

- ▽株式会社コーポレーション 内藤雅義氏（一九八三年法学部卒・五十八歳）
- ▽株式会社ソフィアホールディングス 林哲也氏（一九九九年法学部卒・四十四歳）
- ▽ベル食品株式会社 福山浩司氏（二〇〇一年経営学部卒・四十一歳）
- ▽株式会社トーハン 近藤敏貴氏（一九八六年文学部卒・五十七歳）
- ▽株式会社CDG 小西秀央氏（一九九六年政経学部卒・四十六歳）
- ▽東北アルフレッサ株式会社 川島啓嗣氏（一九七

九年工学部卒・六十三歳）

※二〇一八年十月一日就任予定

●私立大学等経常費補助金

明大の二〇一七年度交付額は約二十九億円

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇一七年度の私立大学等（大学・短期大学・高等専門学校）に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表した。本学への交付額は29億4560万4000円となり、順位は全国十五位だった（前年度八位）。

私立大学等経常費補助金は、①私立大学等の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の経営の健全性向上に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として全額、学校法人に対して設置学校の経常的経費について補助するものである。

この補助金には、各学校における教職員数や学生数等に所定の単価を乗じて得た基準額を教育研究条件の状況に応じて傾斜配分する「一般補助」と、教育・研究に関する特色ある取り組みに応じて配分する「特別補助」がある。

二〇一七年度の経常費補助金の交付状況を見ると、交付学校数は八百七十三校、交付総額は3168億4057万5000円であ

り、内訳では一般補助2688億7300万円、特別補助479億6757万5000円となっている。

このうち私立大学には、2943億5676万7000円が交付されている。交付額を大学一校当たりで換算すると5億1371万2000円で、学生一人当たり15万5000円となる。

二〇一七年度は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化、プラットフォーム形成といった改革に全学的・組織的に取り組む学校に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」として、四百七十三校に対し増額配分（一般補助および特別補助の内数）が行われた。

本学への交付額の29億4560万4000円のうち、一般補助は22億5708万9000円、特別補助は6億8851万5000円であった。

国から経常費補助金として財政支援を受けている大学は、社会の要請に応えるべく、教育・研究体制を構築していかなければならない。本学においても、グローバル社会で活躍できる人材の育成、研究成果の発信等による地域・社会との連携を中心に、緩みなく改革に取り組み、さらなる補助金の獲得を目指し

積極的な展開を図っていく。

●文学部心理社会学科哲学専攻開設記念講座

「中国思想と西洋思想の出会い」を開催

リバティアカデミーは六月九日、「中国思想と西洋思想の出会い」中国は『哲学』の衝撃をどう受けとめたのか？』と題するオーブン講座（杉並区教育委員会共催）を和泉キャンパス・和泉図書館ホールで開催した。

同講座は、文学部心理社会学科哲学専攻の開設記念講座として位置づけられ、中国哲学、中国文学が専門の志野好伸文学部教授が講師を担当。中国の哲学者が中国思想や中国の現代化に与えた影響を十九世紀以降の中国史を中心に丁寧に紐解いた。

志野教授は、一九一八年に終結した第一次大戦を「西洋の没落」としてとらえ、新たな哲学思想が発展したことや、一九一九年に胡適が著した『中国哲学史大綱』について、「中国の神話から歴史・思想を語ることなく哲学を語ったことが画期的であった」と分かりやすく解説。二十世紀以降の哲学者たちの考察など、余すことなく紹介し、九十人を超える受講生は、熱心に耳を傾けた。

最後は、日本における西洋思想の受け入れについて「日本古来の思想や哲学が、日本哲学」として表現されることはあまりない。ここに、あらゆる思想を柔軟に受け入れてい

く土壌が日本にあるということが垣間見られるのではないかと発言。講座は大盛況のうちに幕を閉じた。

●グローバル・ビジネス研究科

「EPAAS認証」授賞式に参加

―国際基準の教育を目指す―

専門職大学院グローバル・ビジネス研究科（明治大学ビジネススクールⅡMBS）が二〇一七年度に取得した国際評価「EPAAS認証」。その授賞式が六月七日、デンマーク・コペンハーゲンで開催された経営系大学・大学院の国際認証機関EFMD（本部・ベルギー・ブリュッセル）の定期総会の中で行われ、MBSからは、木村哲研究科長と山村能郎教授が出席。木村研究科長が認証盾を受け取った。

EPAAS認証は、EFMDが対象とするビジネススクールの国際性やカリキュラム編成、教育・研究の質など七十六項目にわたり評価するシステム。MBSは日本の大学院として初めて取得している。

木村研究科長と山村教授は滞在中、EFMDに加盟する世界各国のビジネススクール担当者たちと積極的に交流・情報交換を行った。MBSは今後も、国際基準に適した確固たる地位を確立すべく、海外ビジネススクールと提携した授業展開や、最先端の教育の提

供、E P A Sでも高い評価を得たファミリービジネス教育をさらに充実させていく。

●日本建築学会賞二部門で

理工学部の学生・教員が受賞

一般社団法人日本建築学会がこのたび発表した二〇一八年日本建築学会各賞において、理工学部建築学科の小林正美教授が「日本建築学会賞（業績）」を、同じく山本俊哉研究室が「日本建築学会教育賞（教育貢献）」をそれぞれ受賞した。

小林教授は、約四十年にわたり開催されている「学生設計優秀作品展―建築・都市・環境」（通称レモン展）への協力が建築設計教育へ貢献していると認められ、レモン画翠、重枝豊氏、学生設計優秀作品展組織委員会との共同受賞となった。なお、同組織委員会では理工学部の大河内学教授、門脇耕三専任講師も主要委員を務めている。

山本研究室は、「逃げ地図づくりを通じた世代間・地域間のリスク・コミュニケーションの促進」と題した業績で、日建設計ポランティア部や千葉大学木下勇研究室、一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズと共同で受賞した。

受賞の対象となった逃げ地図は、災害時に高齢者が避難場所まで歩行してたどり着ける経路を、避難時間3分ごとに色分けして避難

方向を図示した地図。山本研究室は二〇一二年から東日本大震災の被災地等で継続して研究開発を進めている。

●畠中君代トッパスリート支援基金

柔道・小川選手、水泳・仲家選手が奨学生に

「畠中君代トッパスリート支援基金」の二〇一八年度奨学生二人がこのほど決定し、六月二十日、駿河台キャンパス・大学会館で目録贈呈式が催された。

この基金は、体育会硬式庭球部OG・畠中君代氏（一九六七年文学部卒）の厚志により創設されたもので、二〇二〇年の東京五輪をはじめ国際大会での活躍を目指す明大トッパスリートの支援が目的。今回は、柔道部の小川雄勢選手、水泳部の仲家慎吾選手（ともに政経学部4年）が採用となった。

贈呈式では、関係者が見守る中、土屋恵一郎学長から奨学生に目録が手渡され、見届けた畠中氏が「ぜひとも五輪に。高い目標を持つて二年後を目指してほしい」と激励。続いて土屋学長は、「東京五輪に出場、そして活躍して明治大学の名をとどろかせて」と期待を込めた。

奨学生二人は、「代表争いは厳しい戦い。九月の世界選手権で優勝し、五輪につなげていきたい」（小川選手）、「専門の長距離自由形は海外に比べて劣るといわれているが、決

勝に進出してメダル争いをしたい」（仲家選手）と、それぞれ力強く抱負を述べた。

●ラグビー部

関東大学春季大会で初優勝

体育会ラグビー部は六月三日、明大八幡山グラウンドで行われた関東大学ラグビー春季大会Aグループ第六週目で大東文化大学と対戦し、80-14で勝利した。この結果、春季大会初優勝を決めた。

開始早々から攻勢をかけるラグビー部は、前半五分の先制トライを皮切りに立て続けにトライを奪取。スクラムハーフの福田健太主将（法学部4年）を中心に終始主導権を握って合計十二トライを量産し、圧倒した。

春季大会では、初戦で帝京大学を17-14で破ると、勢いそのままに東海大学、流通経済大学、慶應義塾大学に勝利しグループ全勝。二〇一二年からスタートした同大会で初めての優勝となった。

●水泳部

松元、溝畑、矢島3選手が国際大会へ

体育会水泳部から3選手が、今年八月に開催される国際大会の日本代表に選出された。自由形の松元克央選手（政経学部4年）、バタフライの矢島優也選手（商学部4年）、リレーで溝畑樹蘭選手（政治経済学部2年）

が八月九日～十二日に開催される四年に一度の競泳国際大会「第十三回パンパシフィック水泳選手権大会」(東京辰巳国際水泳場)に出場する。同大会には、同部OBで自由形の平井彬嗣選手(二〇一六年政経経済学部卒)も選出されている。なお、松元、溝畑、平井の3選手は、「第十八回アジア大会」(八月十八日～二十四日、インドネシア・ジャカルタ)への出場も決定している。

●駿台体育会

団体優勝3部を表彰

二〇一七年度に活躍した体育会スケート部、拳法部、少林寺拳法部の3部がこのほど、駿台体育会から団体優勝部表彰を受けた。

六月二十日に開催された駿台体育会総会では、関根宏一会長が各部の部長・監督に記念の楯を贈呈。各部を代表して謝辞に立った少林寺拳法部の永江敦部長(政治経済学部専任講師)は、「学生たちは勝つという経験で、一つ成長することが出来た。また頑張りた」とさらなる飛躍を誓った。各部の受賞は以下のとおり。

▽スケート部…第九十回日本学生氷上競技選手権大会 総合優勝

▽拳法部…第六十二回全日本学生拳法選手権大会 優勝

▽少林寺拳法部…第五十一回少林寺拳法全日

本学生大会 総合優勝

◆五月総会出席者

青木幹則、青柳勝栄、坪昭二、浅井宏、安達明正、阿部倫明、有賀隆治、飯田和人、石橋良一、泉山和久、伊東正博、井上貴之、伊原敏雄、上西紘治、宇川一夫、宇田川雄弘、内川雄一郎、江崎徹、大野正美、大原幸男、大前実之、大村託現、鬼塚和也、栢森靖、荻部彰夫、河村博、草木頼幸、小島清治、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、齋藤柳光、三枝富博、坂田英夫、入会前同伴、笹田学、佐藤和正、佐藤健、佐藤仁、佐野公哉、椎名茂樹、志田憲彦、杉浦伸二、鈴木絃一、鈴木隆志、関孝夫、相臺志浩、高澤徹、入会前同伴、高橋郁夫、武内裕、武田宣夫、谷原誠、田村駿、樽見俊之、辻井知明、天童美德(代理)、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏洋、中里猛志、中根武、長堀守弘、中村豊、二井康夫、西澤豊、根岸伸明、野口昌宏、長谷川進一、畠中君代、幡谷公朗、塙英幸、羽生健一郎、馬場範夫、日高憲三、平田静子、福田和彦、福見勉、藤巻伴英、前川一郎、榎野泰、松崎優子、摩尼和夫、宮坂寿彦、宮下隆、向井眞一、村岡健、室井恵明、柳谷孝、山上雅隆、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、山田幸夫、弓野理恵、義江邦夫、

【編集後記】

関東東甲信地方は、平年より二十二日早い六月二十九日に梅雨明けとなり、うだるような暑さが続いておりますが、皆様におかれましては、お変わりございませんでしょうか？

編集後記を執筆している今日現在では、ワールドカップサッカーで日本が決勝トーナメント進出を決め、全国各地は盛り上がりを見せている。決勝トーナメント進出の要因の一つとして、母校出身の長友佑都選手(二〇〇五年サッカー部入部)の活躍がある。

今回の代表メンバーは、一部のファンからベテランが多いため「おっさんジャパン」と揶揄されていた。チームの平均年齢は二十九・四五歳で、今回の出場国三十二カ国のうち八番目に高いからだ。

長友選手は、出国前に自身のツイッターで「年齢で物事判断する人はサッカー知らない人」と反論。大きな反響を呼び物議を醸したが、「僕は日本代表の炎上隊長」と明るく笑い飛ばし、そして、実際に「決勝トーナメント進出」という結果で示してくれた。

小職も九月で五十歳となり、完全な「おっさん」だが、「人生100年時代」と考えると、中間点に過ぎない。今後、ワクワクする人生が待っている。「やりたい」「楽しい」「面白い」を仕事にし、そして、物心両面の幸福を実現していく。「義務感」や「苦しい」という気持ちで仕事をする時代は終わりにしたい。「人生楽しんでもの勝ち」の時代がやってくる。

(宮本浩二)